

# 性教育における教育内容・方法の研究

授業及び教育相談による価値観形成に向けての取り組み

## A Study of Curriculum and Instruction in Sex Education:

Toward the Better Formation of a Sense of Value through Classroom Activity and Guidance

町田健一

国際基督教大学

Kenichi Machida

International Christian University



### Keywords

性教育、態度変容、大学生、教育内容・方法

SEX EDUCATION, ATTITUDES, UNIVERSITY STUDENTS,  
CURRICULUM & INSTRUCTION

## Abstract

### The Purpose of Research

Much attention has recently been paid to the importance of sex education. Conversely, it is often said that in sex education we should teach only biological facts about human bodies, but no further aspects such as the sense of value towards sex. To support this opinion, it is said that in the modern world sex does not necessarily mean love and that sex issues are too complex to be able to clarify in the domain of educational purpose. Is this really the way sex education should

be? It is true that many young people nowadays hesitate to use the word “love”, and instead employ other weaker-sounding terminology such as “like”. This tendency to avoid the strong word “love”, however, results mostly from a lack of appropriate knowledge and information about sex as well as from the complexity of “love” itself. In other words, there must be some crucial issues which can be considered for the purpose of better sex education.

In this research, two aspects of sex education were examined by means of a survey of university students. The two aspects are as follows: (1) Sources of sex information in junior high and high school, and university, and their effect on the formation of sexual attitudes. (2) Necessary and effective educational approaches toward better sex education.

## **Procedure**

Two classes of the Division of Education at ICU with almost the same number of students were selected for this research. One class, with four periods of sex education as the experimental group, consisted of 53 students (male 12 and female 41). The other, with no sex education periods as the control group, consisted of 54 students (male 17 and female 37, excluding three students who took both classes).

Both classes were carried on through student centred group research, presentations and discussions, and the instructor’s brief lectures except for the students’ presentations and the intensive supplementary lectures (two periods for each) on sex education for the experimental group.

At the beginning of the term, a questionnaire about sex education in their junior high, high school and university, and its effects on thought and attitudes towards sex, was distributed to the both groups

of students and the data were closely analysed. At the end of term, both groups of students were asked mainly about possible changes in their thought and attitudes through the course studies on sex.

## Results

In the end-of-term questionnaire, significant differences were revealed between the experimental and control groups ( $p<0.05$ ). As regards the experimental group, the average of the course evaluation was 4.3. Moreover, 63% of the experimental group claimed that the course helped change their attitudes towards sex, 15% of the same group replied that the course agreed with their previous concepts of sex. Furthermore, the questionnaire revealed that a considerable change in attitudes was obvious in various aspects throughout the course. In other words, the research demonstrated that there are many important issues to be discussed concerning educational content and method for the better formation of a sexual sense among young people.

### 1. 研究の目的と背景

今日、性教育の重要さが謳われ、多くの教育実践がなされているが、いくつかの越え難い課題がある。まず、その内容に対する恥じらいも含めた扱いにくさ、子どもたちの発達段階・取り巻く環境の違いからくる多様さ、また、親や教師自身の知識不足・抱えている問題や体験である。さらに重くのしかかる課題は、今回の研究課題である、性教育の内容に係わる価値観形成の問題である。

性教育の内容について最近、「現代は性を愛という言葉で枠組みすることができず、また一定のルールで規制することもできない。性教育においては、科学的知識と事実のみを教え、価値観の指導はすべきでない／する

ことはできない。」とよく言われる。本当だろうか？確かに多くの若者が「愛」の言葉を避け、「好き」「納得」という言葉で自分の行動を理由づけている。しかし、彼らの価値観・態度形成の根拠を問うと甚だ心もとなく、自分では十分もっていると思っている知識の不確かさ、情報源の問題が浮かび上がる。今回、中学校・高等学校・大学の過程で青年たちがどのような知識をどのようなものから得て、どのような態度形成をしているか、どのような教育的アプローチが必要で効果的なのかを考察する。

筆者は長年、多くの中学生、またその卒業生の教育相談にあたってきた中で、特に現代の多くの青少年たちが、性に係わる諸問題に翻弄され悩んでいることに心を痛め、真摯に取り組む必要を感じてきた。今回、それらの相談内容、および中学生・高校生・大学生・教師、また小中高生の親向けに行ってきた授業または講演内容を吟味し直して、具体的展開を試みた。本研究は単なる調査ではなく、学校教育の（望ましい人間教育としての）教育課程・教授法研究の一環として企画したものである。

## 2. 方法

### 2・1 被験者

国際基督教大学における、ほぼ同じサイズの教育学科の二つの授業の履修者を選び、性教育について4時限とりあげる授業の履修者53名（男子12名、女子41名）を実験群、性教育に触れない授業の履修者54名（男子17名、女子37名、両方の授業を履修した3名は除いてある）を統制群とした。どちらも1年生から4年生まで履修しているが、2年生、3年生が中心の授業である。

### 2・2 指導内容と方法

どちらの授業も学生参画型であり、5つから6つのテーマについてそれぞれ2時限ずつ、自分たちで自由に計画するグループ研究発表とディスカッション、補充の講義を行った。ただし、性教育のテーマについてはさらに2時限の講義を行った。学生の発表の弱い点を補うことはもちろん、理念的

側面、現実的側面から体系的に独自に再構成したものである。講義後、随時授業内容に関連して相談を受ける旨発表し、希望者に教育相談を行った。

学期のはじめに事前調査<sup>1</sup>として双方のグループに中学校、高等学校、大学において受けてきた性教育の内容、その時代にもっていた自分の考え方・態度、影響を受けたと思われるものなどについて細かく尋ねた。事前調査において記憶等の不確かさの問題は残る。性教育の講義直後の事後調査においては、履修時点での考え方・態度のみ調査する項目に絞った。態度変容を見るため事前調査および事後調査に10桁の独自のID番号を記入させて、無記名の両調査をマッチングさせた。主要な調査項目はその結果と共に各表中に示す。

性教育の講義の目的は、「半分は教師や親になった時のために、もう半分は現在そのまっただ中にいる学生本人のために」とした。現代における青年たちの深刻な性の問題をデータで明らかにしつつ、(1) 性教育の基本姿勢・土台をどの様に定めるべきかの問いかけ、(2) 十分な知識を持ち、主体的に自らの責任・決断で行動していると思っている学生たちの、価値観・態度形成の心もとなさ、多くの誤った情報の具体的な指摘と共に、性教育で網羅すべき体系的情報の提供、(3) よりよい「性」を目指し、「愛」「人権」「人格形成」をキーワードに「生殖の性」のみならず「人格的交わりの性」の考察、を行った。キリスト教教育・全人教育としての教育哲学、教育社会学、心理学、倫理、生理・保健衛生学等の総合的学習を目指したものである。具体的な内容構成は以下の通りである。

## — 講義内容 —

### 序 「性」を考える枠組み

二人だけの問題と言いきれるか？

#### 1. 現代における青年たちの性：3つの深刻な問題

- ・ 性に対する許容態度
- ・ 避妊の知識と実行の度合
- ・ 性行為の繰り返しと複数の相手

[注] 高校生・大学生の「性」に対する考え方に最も影響を与えたものは？

大人の世代を見て「愛」「結婚」に夢を持たない世代

## 2. 性に対する考え方の歴史的変遷と問題点

- ・表現の自由
- ・「愛していれば」、「納得していれば」、「責任が取れば」の考え方の推移
- ・経済成長と商業主義

## 3. 性教育の基本姿勢の違い<sup>2</sup>

- ・山本直英の主張
- ・河野美代子の主張
- ・バルトの主張

## 4. より良い性を目指して：町田の3つの視点

- ・「自分を大切に」、「相手を心から大切に」とは？  
自分の人権と相手の人権、そして子供の人権（自由と責任）  
本当に相手を大切に思っているならば・・・（自分中心の欲求では・・・）
- ・結婚の準備は生まれたときから？  
人格形成、異性を「見る目」  
「快樂の性」に対して「人格的交わりの性」（性に対するきれいなイメージ作り）
- ・バルトの主張の意味するところ

[注]「幸せ」「結婚」「性」の位置づけ

## 5. 「性」に対する正しい知識

- ・恋愛感情と性
- ・青年期の性に関する悩み（身体的不安を含む）
- ・生殖器官・妊娠・出産の知識
- ・「性交」に対する考え方
- ・青年期の性欲：男女の欲求の違い
- ・「初めて許した」女子生徒・学生の悲しい（？）理由  
古くから言われてきた「男女交際のマナー」は今やナンセンスか？
- ・避妊法  
重大な事実と大原則

### 各避妊法と問題点

- ・ 性感染症・HIV 感染症
- ・ 妊娠月数と中絶

## 3. 結果

事前調査において両群に有意差が見られないため、中学校から大学の過程での態度変容については全体としてまとめ、今回の授業効果を事後調査で比較考察した。事前調査および事後調査の質問項目のうち重要なものを選び、今回のまとめの順にその結果を表にして以下に記す。

全体として特記すべきことがらは、一般的に性教育の内容が中学校・高等学校では科目ごとに断片的に扱われ、知りたいと思っていることと授業内容にずれがあり（5段階の授業評価で平均 1.7（中学）、2.1（高校）と不満を表している：表 1）、特に、異性との心理・行動面での違い、現実の社会で起こっていることがら・自分を含めた友人の間で直面している問題が扱われていないことである。

**表 1 授業評価**

性教育の授業で扱ったことがらは、あなたにとって役に立った内容でしたか？

	非常に役に立った	何とも言えない	全く役に立たなかった
	5-----4-----3-----2-----1		
	<u>中学時代</u>	<u>高校時代</u>	<u>大学時代（今回）</u>
5（非常に役に立った）	1 （ 1%）	2 （ 2%）	18 （39%）
4	3 （ 3%）	8 （ 8%）	25 （54%）
3（何とも言えない）	7 （ 8%）	18 （19%）	3 （ 6%）
2	37 （40%）	40 （42%）	0 （ 0%）
1（全く役に立たなかった）	45 （48%）	28 （29%）	0 （ 0%）
平均	1.69	2.13	4.33
（合計人数）	（93）	（96）	（46）

さらに、中学校時点では、強く影響を与えたものに、「親」や「授業内容」「教師」がまだあげられているが、高校へ進むにつれてその割合は減り、常に上位を占めている「友人」に加え、特に大学では「恋人」が大きな存在となってきた（表 2）。事後調査においては両群に有意差がみられ（ $p < 0.05$ ）、実験群では今回の授業評価の平均は 5 段階評価の 4.3 で、自己評価で態度変容があったと答えたものが 63%、特に変化はなかったが今までの自分の考え方が支持されたと答えた学生が 15% あった（表 3）。実際に実験群は統制群に比べ、例えば婚前交渉に対して「お互いに納得していればよい」「一生で sex の相手が一人だけなんて考えられない」と答えた学生が激減し、「どんな場合もいけない」「結婚前提ならば」「愛し合っていれば」の解答が大きく増えた。また、中絶を例にしても、その考え方が「やむを得ない」「当然かまわない」からそれぞれ「絶対反対（レイプを除いて）」「やむを得ない」へ移行した（表 4、表 5 をさらに個別の推移からも見た）。参考までに事前調査における両群の「愛し合っている」「納得している」の内容（自由記述）の主なものを表 6 に記しておく。

**表 2 影響を与えたもの**

- (a) 性に係わるあなたの行動や意識に、これまでどんなものが影響を与えたと感じますか？（ ）の中にいくつでも該当する番号を書いて下さい。

	中学時代	高校時代	大学時代（事前）
1. 親	13 (14%)	9 (9%)	3 (3%)
2. 友人	66 (71%)	71 (74%)	76 (79%)
3. 恋人	5 (5%)	28 (29%)	41 (43%)
4. 教師	12 (13%)	7 (7%)	0 (0%)
5. 学校の授業	38 (41%)	35 (36%)	16 (17%)
6. 新聞や雑誌の記事	58 (62%)	62 (65%)	75 (78%)
7. マンガ・コミックス	42 (45%)	38 (40%)	41 (43%)
8. その他の本（小説）	26 (28%)	21 (22%)	33 (34%)
9. テレビ・ラジオ	63 (68%)	65 (68%)	72 (75%)
10. ビデオ	2 (2%)	8 (8%)	12 (13%)
11. その他	7 (8%)	7 (7%)	7 (7%)



(b) それでは、最も影響を与えたものは何だったと感じますか？一つだけ番号を選んで下さい。

	中学時代	高校時代	大学時代（事前）
1. 親	3 ( 3%)	3 ( 3%)	1 ( 1%)
2. 友人	33 (35%)	31 (32%)	30 (31%)
3. 恋人	2 ( 2%)	8 ( 8%)	22 (23%)
4. 教師	3 ( 3%)	2 ( 2%)	0 ( 0%)
5. 学校の授業	3 ( 3%)	2 ( 2%)	1 ( 1%)
6. 新聞や雑誌の記事	21 (23%)	27 (28%)	24 (25%)
7. マンガ・コミックス	1 ( 1%)	2 ( 2%)	2 ( 2%)
8. その他の本（小説等）	6 ( 6%)	5 ( 5%)	4 ( 4%)
9. テレビ・ラジオ	13 (14%)	9 ( 9%)	3 ( 3%)
10. ビデオ	2 ( 2%)	6 ( 6%)	8 ( 8%)
11. その他	6 ( 6%)	1 ( 1%)	1 ( 1%)

### 表 3 態度変容

この性教育の授業を受けたことによってあなたの価値観などが変わりましたか？ 又は心境の変化及び行動の変化（例：異性との付き合い方）がありましたか？

(1) はい：29 人 (63%)

具体的に：

- ・自分は十分知識を持っていると思ったが、科学的な知識すら不十分。ましてや自分の価値観は根底からひっくり返された（女子）
- ・性を否定的に考えなくなり、重みを増した（女子）
- ・「本当に愛しているなら無責任な性交渉は持てない」との主張を聞き、自責の念にかられた。考え直した。（男子）
- ・「納得している」と考えたいが、いかに自分の考えが甘かったかがわかった。相手とよく話し合う。（女子）
- ・もう絶対に馬鹿なことはできなくなった。（女子）

- ・現代の男女関係に疑問を持っていたが、やはりそれは違っていると確信できた。(女子)
- ・相手を正しく理解することの大切さ、自分の気持ち・行動を客観的に見る必要を感じた。(男子)

(2) いいえ：17 (37%) その内「支持された」「もともと」：7 人(15%)

- ・自分は保守的すぎると思っていたが、それでも良いとはっきり自覚。(女子)
- ・今の時代に合わせる必要がない (いままでどおり堅い意志を持って)と確信した。(女子)

**表 4 婚前交渉に関する考え方**

「婚前交渉」について現在のあなたの考えは以下のどれに近いですか？該当するもの ( ) の中に○をつけて下さい (いくつ○をつけてもかまいません)。

	中学時代	高校時代	大学時代 (事前)		大学時代 (事後)	
			実験群	統制群	実験群	統制群
1. どんな場合でもいけない	47 (51%)	25 (26%)	2 ( 4%)	3 ( 6%)	15 (33%)	2 ( 5%)
2. 結婚が前提ならかまわない	42 (45%)	57 (59%)	6 (12%)	7 (15%)	25 (54%)	8 (18%)
3. 愛し合っていればかまわない	65 (70%)	68 (71%)	21 (43%)	19 (40%)	32 (69%)	18 (38%)
4. お互い納得していればかまわない	17 (18%)	42 (44%)	22 (45%)	24 (51%)	10 (22%)	26 (59%)
5. 一生で sex の相手が一人だけなんて考えられない	1 ( 1%)	12 (13%)	8 (16%)	9 (19%)	4 ( 9%)	11 (25%)
6. 「婚前交渉」ということばの意味がわからなかった	3 ( 3%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)
7. 相手の強い要求ならば仕方がない	5 ( 5%)	11 (11%)	6 (12%)	9 (19%)	0 ( 0%)	8 (18%)
	(93)	(96)	(49)	(47)	(46)	(44)

表 5 中絶に関する考え方

「婚前性交」を認める／認めないに関わらずあなたの人工妊娠中絶に対する考え方は以下のどれに近いですか？ 該当する番号に○をつけ、その理由を記して下さい。

	中学時代	高校時代	大学時代（事前）		大学時代（事後）	
			実験群	統制群	実験群	統制群
1. 中絶は絶対反対	42 (45%)	21 (22%)	7 (14%)	8 (17%)	16 (34%)	6 (14%)
2. 中絶はやむをえない	49 (53%)	68 (71%)	34 (69%)	29 (62%)	30 (65%)	27 (61%)
3. 当然かまわない	2 ( 2%)	7 ( 7%)	8 (16%)	10 (21%)	0 ( 0%)	11 (25%)

表 6 「愛」「納得」の理解

① あなたは、「愛し合っている」という言葉を具体的にはどのように捉えていますか？ あなた流に説明して下さい。

- ・深い尊敬と親しみ・安心感・必要感
- ・誠実にお互いを思いやる気持ち
- ・お互いのすべてが受け入れられること
  
- ・「好き」より深い気持ち
- ・お互い死んでも、そこにいなくても好き
- ・お互いがいきいき生きられる
- ・妊娠を心から喜び合える仲
- ・その人だけ（情熱）
  
- ・一時的に好き
- ・sex を求める気持ち
- ・単に快樂

② あなたは「納得している」という言葉を具体的にどのような意味で捉えていますか？ あなた流に説明して下さい。

- ・性交の意味を理解していること
- ・不本意な妊娠も覚悟できていること（しかし自分には理解できない）
- ・妊娠の可能性、性病の危険をわかっていること
- ・すべての条件・リスクを考え合わせて…
- ・責任を考え、責任をとれる
- ・衝動でなく同意・合意
- ・強制でなく自主的なもの
  
- ・二人が弱くその言葉にしか頼れないこと
- ・愛がなくても相手を十分理解していること
- ・愛情と sex は別物
  
- ・その瞬間お互いが望んでいること
- ・単なる欲求を満たすための理由
- ・「別にいいやこの人でも…」
- ・「sex でも構わない。どうでも良い」

また、不倫や同棲に対する考え方は一般的に（事前調査においては実験群、統制群、両群とも）「仕方がない」と捉えられており、実験群の事後調査においても、自分に対しては厳しくなっても他人に対しては許容度が期待したほど下がっていない（表 7、表 8）。

結婚観については、性をきれいなものとして受容できても、結婚を束縛と考えたり、子どもはいらないと考える傾向が強くなっていることは特記すべきことである。女性にとって、生きがいとしての職業や、自分の体験も含めてあまりに多い不幸な結婚・家庭に関する情報は、理想や夢を追えない現実直視にしているように見える（表 9、表 10）。

おわりに、授業後質問・教育相談を受け付けたところ大きな悩みを抱えた 7 名の学生（A、B、C、D、E、F、G）が直後に訪れ、対話から、特に講義に抵抗を示した 3 名の学生（B、C、G）が、軽率さを反省しつつも一

生懸命だった過去の自分を受け入れ、性に対する考え方・行動を改め将来を大切にできるようになったことを特記しておく。教育相談による態度変容の主なポイントは以下の通りである

#### 来談前

#### 来談後

- |                           |  |
|---------------------------|--|
| A： 現在言い寄られての悩み            | → 相手にきちんと話す                                  |
| B： 同棲中（肯定派）               | → 「良く相談して結婚を考える」                             |
| C： 「今の自分が否定された<br>ような気持ち」 | → 真剣だった過去の自分を受け入れ                            |
| D： 過去に悩む                  | → 過去の自分を許し、受け入れ                              |
| E： 友人から古いと笑われている          | → 自分に自信、友人を啓蒙する決心                            |
| F： みじめ、過去に悩む              | → 自分を受け入れ、同じ境遇の友人にも話す                        |
| G： 不倫中（肯定派）               | → 逆の立場（相手の妻）を考え、<br>まず自分の気持ちを整理して相手と良く話し合う決心 |

表7 「不倫」についての考え方

あなたの「不倫」についての考え方は以下のどれに近いですか？ 該当する番号に○をつけて下さい。

自分の場合

	中学時代	高校時代	大学時代（事前）		大学時代（事後）	
			実験群	統制群	実験群	統制群
1. 絶対に許されない	73 (78%)	56 (58%)	18 (37%)	16 (34%)	31 (67%)	15 (34%)
2. 愛し合っているなら仕方がないこと	14 (15%)	29 (30%)	14 (29%)	15 (32%)	7 (15%)	13 (30%)
3. 人が一人だけ愛し続けるのは無理	1 ( 1%)	3 ( 3%)	6 (12%)	5 (10%)	0 ( 0%)	6 (14%)
4. 一生で sex の相手が一人だけなんて考えられない	0 ( 0%)	1 ( 1%)	2 ( 4%)	3 ( 6%)	0 ( 0%)	4 ( 9%)
5. 配偶者に（不倫など）問題があるならば仕方がない	5 ( 5%)	6 ( 6%)	6 (12%)	4 ( 8%)	3 ( 7%)	4 ( 9%)
6. その他	0 ( 0%)	1 ( 1%)	3 ( 6%)	4 ( 8%)	4 ( 9%)	2 ( 5%)

他人の場合

	中学時代	高校時代	大学時代（事前）		大学時代（事後）	
			実験群	統制群	実験群	統制群
1. 絶対に許されない	68 (73%)	51 (53%)	14 (29%)	13 (28%)	16 (35%)	11 (25%)
2. 愛し合っているなら仕方がないこと	19 (20%)	30 (31%)	23 (47%)	23 (49%)	14 (30%)	25 (57%)
3. 人が一人だけ愛し続けるのは無理	1 ( 1%)	5 ( 5%)	6 (12%)	4 ( 9%)	3 ( 7%)	4 ( 9%)
4. 一生で sex の相手が一人だけなんて考えられない	0 ( 0%)	2 ( 2%)	2 ( 4%)	2 ( 4%)	1 ( 2%)	3 ( 7%)
5. 配偶者に（不倫など）問題があるならば仕方がない	5 ( 5%)	8 ( 8%)	3 ( 7%)	3 ( 6%)	5 (11%)	1 ( 2%)
6. その他	0 ( 0%)	0 ( 0%)	1 ( 2%)	2 ( 4%)	7 (15%)	0 ( 0%)

表 8 「同棲」等に関する考え方

あなたの「学生時代に限る等、契約による同棲」、「セックスフレンド」についての考え方は以下のどれに近いですか？ 該当する番号に○をつけて下さい。

自分の場合

	中学時代	高校時代	大学時代（事前）		大学時代（事後）	
			実験群	統制群	実験群	統制群
1. 絶対に許されない	78 (84%)	61 (64%)	18 (37%)	16 (34%)	27 (59%)	17 (39%)
2. 愛し合っているなら仕方がないこと	8 ( 9%)	19 (20%)	10 (20%)	9 (19%)	9 (20%)	8 (18%)
3. 人が一人だけ愛し続けるのは無理	7 ( 8%)	14 (15%)	9 (18%)	10 (21%)	1 ( 2%)	8 (18%)
4. 一生で sex の相手が一人だけなんて考えられない	0 ( 0%)	2 ( 2%)	6 (12%)	7 (15%)	2 ( 4%)	7 (16%)
5. その他	0 ( 0%)	0 ( 0%)	6 (12%)	5 (11%)	7 (15%)	4 ( 9%)

他人の場合

	中学時代	高校時代	大学時代（事前）		大学時代（事後）	
			実験群	統制群	実験群	統制群
1. 絶対に許されない	72 (77%)	42 (44%)	6 (12%)	8 (17%)	17 (37%)	5 (11%)
2. 愛し合っているなら仕方がないこと	11 (12%)	34 (35%)	17 (35%)	18 (38%)	10 (22%)	19 (43%)
3. 人が一人だけ愛し続けるのは無理	10 (11%)	15 (16%)	13 (27%)	9 (19%)	0 ( 0%)	8 (18%)
4. 一生で sex の相手が一人だけなんて考えられない	0 ( 0%)	3 ( 3%)	7 (14%)	8 (17%)	2 ( 4%)	6 (14%)
5. その他	0 ( 0%)	2 ( 2%)	6 (12%)	4 ( 9%)	17 (37%)	6 (14%)

## 表 9 結婚観

「子供を望まぬ女性たち」、「結婚を望まぬ女性たち」について、あなたの考え方は以下のどれに近いですか(どの考え方を支持しますか)? 該当する番号をそれぞれの ( ) に入れて下さい。

### 自分の場合／自分の伴侶または恋人の場合

	中学時代	高校時代	大学時代 (事前)		大学時代 (事後)	
			実験群	統制群	実験群	統制群
1. 結婚して性的関係は持つが子供は望まない	3 ( 3%)	9 ( 9%)	13 (27%)	10 (21%)	6 (13%)	9 (20%)
2. 結婚せず、性的な関係は持つが子供は望まない	0 ( 0%)	5 ( 5%)	8 (16%)	9 (19%)	3 ( 7%)	8 (18%)
3. (結婚するしないにかかわらず) 性的な関係を拒否 (子供を持たない)	6 ( 6%)	5 ( 5%)	1 ( 2%)	2 ( 4%)	1 ( 2%)	2 ( 5%)
4. 結婚はせず、子供は望む	0 (18%)	0 ( 0%)	4 ( 8%)	2 ( 4%)	1 ( 2%)	2 ( 5%)
5. 結婚をして、子供を持つのが自然	84 (90%)	69 (72%)	23 (47%)	24 (51%)	32 (70%)	21 (48%)
6. その他	0 ( 0%)	8 ( 8%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)	3 ( 7%)	2 ( 5%)

### 他人の場合

	中学時代	高校時代	大学時代 (事前)		大学時代 (事後)	
			実験群	統制群	実験群	統制群
1. 結婚して性的関係は持つが子供は望まない	7 ( 8%)	14 (15%)	8 (16%)	10 (21%)	8 (17%)	11 (25%)
2. 結婚せず、性的な関係は持つが子供は望まない	5 ( 5%)	9 ( 9%)	10 (20%)	9 (19%)	2 ( 4%)	8 (18%)
3. (結婚するしないにかかわらず) 性的な関係を拒否 (子供を持たない)	2 ( 2%)	2 ( 2%)	1 ( 2%)	1 ( 2%)	0 ( 0%)	1 ( 2%)
4. 結婚せず、子供は望む	2 ( 2%)	2 ( 2%)	1 ( 2%)	2 ( 4%)	1 ( 2%)	3 ( 7%)
5. 結婚をして、子供を持つのが自然	69 (74%)	57 (59%)	15 (31%)	12 (26%)	20 (43%)	9 (20%)
6. その他	8 ( 9%)	12 (13%)	14 (29%)*	13 (28%)*	15 (33%)*	12 (27%)*

\* 「本人が望むのであればどの考え方でもやむを得ない」 etc.



表 10 「結婚観」の理由

上の問いについて、あなたがそのように考える理由は以下のどれに近いですか(どの考え方を支持しますか)? 該当する番号をそれぞれの( )に入れて下さい。

#### 自分の場合／自分の伴侶または恋人の場合

	<u>中学時代</u>		<u>高校時代</u>		<u>大学時代 (事前)</u>		<u>大学時代 (事後)</u>	
					実験群	統制群	実験群	統制群
1. 女性が仕事に生きるため 束縛	2 ( 2%)	5 ( 5%)	7 (14%)	10 (21%)	6 (13%)	9 (20%)		
2. 多くの不幸せな結婚と離婚 に伴う不幸せな子供を見 ている	5 ( 5%)	9 ( 9%)	8 (16%)	8 (17%)	5 (11%)	8 (18%)		
3. 気楽に離婚ができるように	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)	1 ( 2%)	0 ( 0%)	1 ( 2%)		
4. 家事・育児は精神的に疲 れる	2 ( 2%)	5 ( 5%)	3 ( 7%)	5 (11%)	1 ( 2%)	4 ( 9%)		
5. 結婚と子供は女性の幸福 (理想)	84 (90%)	68 (71%)	23 (47%)	21 (45%)	24 (52%)	19 (43%)		
6. その他	0 ( 0%)	9 ( 9%)	8 (16%)	2 ( 4%)	10 (22%)	3 ( 7%)		

#### 他人の場合

	<u>中学時代</u>		<u>高校時代</u>		<u>大学時代 (事前)</u>		<u>大学時代 (事後)</u>	
					実験群	統制群	実験群	統制群
1. 女性が仕事に生きるため 束縛	4 ( 4%)	8 ( 8%)	8 (16%)	11 (23%)	5 (11%)	10 (23%)		
2. 多くの不幸せな結婚と離婚 に伴う不幸せな子供を見 ている	7 ( 8%)	12 (13%)	8 (16%)	11 (23%)	6 (13%)	11 (25%)		
3. 気楽に離婚ができるように	0 ( 0%)	1 ( 1%)	0 ( 0%)	1 ( 2%)	0 ( 0%)	1 ( 2%)		
4. 家事・育児は精神的に疲 れる	2 ( 2%)	9 ( 9%)	3 ( 6%)	6 (13%)	2 ( 4%)	4 ( 9%)		
5. 結婚と子供は女性の幸福 (理想)	76 (82%)	61 (64%)	15 (31%)	11 (23%)	17 (37%)	10 (23%)		
6. その他	4 ( 4%)	5 ( 5%)	15 (31%)*	7 (15%)*	16 (35%)*	8 (18%)*		

\* 「一つは選べない。複数要因による。」 etc.

#### 4. 考察

今日、多くの青少年の性行動が、確固たる価値観・態度形成によるものではなく、マスコミに歪められた見方・考え方や、避妊法を含めた誤った情報に左右されていることは、人間教育を目指す学校教育にとって憂慮すべき課題である。一方、「社会規範」に従っていると自認する青少年も「なぜか？」と問われた時に、自らを律する確固とした理由づけができていないことが多い。

今回の調査で、学生の考え方に最も影響を与えたものとして、他の調査と同様「友人」があげられている。さらに、特に女子にとって「恋人」が大きな存在となっていることが明らかになり、婚前の性交渉などで、同性の友人や恋人の意見に従い仕方なく（否定したい）自説を曲げている様子が明らかになったことは特記すべきことである。しかもその友人たちの情報源は、女性誌などの特集、小説、体験記を中心とした雑誌が主であって、学校、親などの割合安全な（？）教育内容ではない。また、特に女子にとって、男子の「恋人」は体の欲求が先に立っていることが多く、「嫌われたくないから」「風俗や他の女性の所に行くなら自分が…」との発想が多いことも、深刻な問題である。そのため特に婚前交渉や中絶に対する価値観・態度形成に大きな問題となっている。数年前に朝日新聞の「声」の欄に投稿された訴え<sup>3</sup>はまさにその典型的な痛々しいものであった。この問題には、単に「高学歴（の女性）」だからとて歯止めになっていない。

今日の性教育はどうあるべきか。今回の調査・取り組みで明らかになったことを整理する。基本的に学生達は、

- (1) 性に関して自分達は十分な知識を持っており、学校の性教育に対して「いまさら…」「どうせ型にはまった古い性道徳を持ち出す」等と思い込んでいる。
- (2) 性は二人だけの問題と考えており、親を含めた家族、妊娠したときの新しい命に対する責任という視点が欠落している。自分達が親になった時の気持ち、子どもの側から見たときの親への期待などの考

え方ができていない。

- (3) 「愛」という言葉を避け／うしろめたさを感じ、または抵抗感さえ持っており、性行為を肯定するために「相手を好きだから」「納得していれば」「その結果に責任がとれれば」の言葉を用いている。
- (4) 不十分な知識で避妊を絶対視し、「快樂の性」、「自由」が強調されて、切り離しがたい「生殖の性」「行為に対する責任」に対する認識が非常に希薄である。
- (5) 現実のどろどろした世の中を見て、性にかかわる理想、夢、美しいものを見失っている、または斜めに構えて見ている。特に「愛」の定義にかなり悩んでおり、いろいろな不幸な家庭や男女関係を見て、失望し、「結婚」を冷めて見ている。

しかし彼らは、教師が自分達の将来を本当に大事に考えてくれ、建前論に終始したりオブラートに包んだ提示の仕方ではなく、真摯に正面から切り込むことを求めている（教師の姿勢）。そして、自分達の悩みに率直に応える内容と具体的で役に立つ知識の提供、自分達の誤りに対する科学的根拠のある指摘、理想的で美しいものを「なぜ」と共に提示されることには、「そのような説明ははじめて聞いた」「そういう説明を求めていた」と多くの学生が新鮮な驚きをもって吸収する。特に多くの青少年が用いている「納得していれば」「責任をとれれば」の現実を直視し、責任をとり切れない事実を知った時に、態度変容が見られる。「具体的で役に立つ知識の提供、自分達の誤りに対する科学的根拠のある指摘」とは、例として、(1) 避妊法や中絶についての安易な考え方や誤りに対する具体的な指摘や正確な知識・諸注意、(2) 異性理解として、性欲や性的悩みを含めた異性の考え方・行動等を指す（教育内容）。さらに、一方的に知識を与えるのではなく、まず自分達で発表内容を立案し、調べ、ディスカッション運営する授業形態は、態度変容を求める講義の前に、問題意識を持ち主体的に取り組む姿勢を作り、効果があったと思われる（教育方法）。これらのことは、事後調査における態度変容理由にあげられた項目以外にも、事後の多くの感想に見られた意見である。

今後取り組むべき研究課題として、5項目まとめておく。第1点は、多くの他の調査や今回の調査から、性交渉を持ったり性の問題でつまずくのは、高校2、3年頃から急に増え始め、親や学校の束縛から解放され大人になったと思ひ込む大学1、2年に多いことである（今回の調査の質問項目では学生自身の「体験」について全く問うていないが、自由記述及び感想の欄に学生自らが触れている）。そのため性教育は、高校1年までにかなりしっかりしておく必要がある。

第2点は、不倫や同棲に対する考え方は一般的に（事前調査において統制群、実験群、両群とも）「仕方がない」であり、実験群の授業後でも、自分に対しては厳しくなっても他人に対しては許容度が期待したほど下がっていないことである。不倫や同棲が学生の間でも市民権を得ているのである。他人に寛容であることは一見人の自由な生き方を尊重しているようであるが、性倫理を含めた社会変革を目指す教育の働きを考える時に愕然とする。

第3点は、結婚観についてである。性をきれいなものとして受容できても、結婚を束縛と考えたり、子どもはいらないと考える傾向が強くなっていることである。女性にとって、生きがいとしての職業を大事にすることは別な課題として、彼らの周りに暖かい家庭が余りに少ないのは、親や教師を含めた大人の反省すべきことがらであり教育の課題である。親や、教師に対する講演時に、「自分達には性教育はできない」理由として、恥じらい、知識不足の問題と同時によく言われることとして、「自分達の過去も含めた私生活」があげられることは大きな問題である

第4点は、大学における性教育の注意である。今回の授業もかなりの学生にとっては遅すぎ、ある学生は自分の過去を守るために、相談に来るまで自分の考え方を変えようとしなかったことなどから、既に体験した学生の気持ちに配慮した展開の仕方、授業のフォローの仕方等併せて考える必要がある。

第5点は、性教育における価値観形成・態度変容を厳密に測定するための、「価値観」の定義、尺度等を整備する必要である。教育心理学における一般的価値観研究の困難さと同じ問題にぶつかる。今後の課題である。

性の問題は、青少年にとって自分だけでなく相手の将来にかかわる問題であり、また特に生まれて来る環境を自分で選択できない新しい命、そしてその子の人権にかかわる問題として、学校教育における人間教育の一環として真剣に取り組まねばならない課題である。日本で主流となっている「安全なセックスの方法を含めた性解放を肯定するような性教育」は、性教育の先進国アメリカやスウェーデンでは、もはや疑問視され、警告さえ発せられて、むしろ、日本とは逆向きの力が働いている。新学習指導要領では、小学校、中学校、高等学校に全教師に係わる教科横断的なカリキュラムともなる「総合的な学習」の時間が開設された。性の問題は一般的に扱いにくい問題であり、特に価値観形成の点では取り上げにくい世の中の動きであるが、全教師の協力のもとに研究、実践していく良い機会であるを考える。

特に ICU は、混沌とした現代に真理を指し示すべきキリスト教主義大学として、そこに学ぶ学生本人の将来のため、さらに教職に就く学生はもちろん世のリーダーとして出て行く学生すべてに対して、性教育の面でも果たすべきその責任は大きい。

## 註

1. 事前調査は、筆者の指導した鳥飼尚子の卒業論文「現代女子高生の性の意識と行動に関する研究」（1996 年卒）の調査を改良して用いた。
2. 山本直英の主張：現日本性教育協会理事。1980 年代岡山県性教育協会代表幹事、吉祥女学院中学校高等学校副校長。そのいくつかの著書や岡山県性教育協会主催の講演における主張のまとめ。  
河野美代子の主張：1980 年代岡山県性教育協会代表幹事、広島市において河野産婦人科クリニック院長。そのいくつかの著書や岡山県性教育協会主催の講演における主張のまとめ。  
バルトの主張：鈴木正久 新教出版社「キリスト教倫理 II 交わりにおける自由」。

山本氏、河野氏の最近の発言は、その強調の仕方にやや変化が出てきているが、本研究では現代における典型的な意見の例として当時の見解を採用した。

3. 20 歳学生匿名「交際＝関係を持つ その愛本物じゃない」朝日新聞「声」欄投書, 1992 年 3 月 11 日  
17 歳高 3 匿名「彼に迫られ悩んでいます」朝日新聞「声」欄投書、1992 年 8 月 27 日等